

# 行政視察報告書

教育民生委員会 行政視察	平成30年7月25日（水）～7月27日（金）	
視察先 及び 調査事項	三鷹市	(1) コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育について
	川崎市	(1) 川崎市子ども夢パークについて (2) かわさき宙と緑の科学館について
	足立区	□ 子どもの貧困対策について
<p><b>§ 1 コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育について</b></p> <p style="text-align: center;">平成30年7月25日（13時30分～15時30分）東京都三鷹市（三鷹市役所）</p> <p><b>1 三鷹市立小・中一貫教育の特色</b></p> <p>系統性・連続性を重視した義務教育9年間の指導に責任をもち、学園内の小・中学校間の一貫した指導と交流活動をとおして、一体感のある学園としての教育を推進している。三鷹らしい多様な教育活動や地域人財との協働を通して「地域とともにある小・中一貫教育校」としての充実・発展を目指している。</p> <p>(1) 義務教育9年間の教育を現行の法制度の下で</p> <p>(2) 既存の小学校・中学校を存続させた形で</p> <p>(3) コミュニティ・スクールを基盤として</p> <p>(4) 小・中一貫カリキュラムに基づき 系統性と連続性を重視して行い児童・生徒に「人間力」と「社会力」を培っている</p> <p><b>2 業務発令・相互乗り入れ授業</b></p> <p>小学校の教員も中学校の教員も児童・生徒の義務教育9年間の教育を「本務として」責任をもって行えるよう全ての教員が学園の小・中学校両方の教員として東京都教育委員会から「兼務発令されている」</p> <p><b>3 カリキュラム</b></p> <p>小・中学校の教員が、児童・生徒の各発達段階を理解し、系統性と連続性のある9年間一貫して行うために小・中一貫カリキュラムに基づく事業を実施している。</p> <p><b>4 コミュニティ・スクール</b></p> <p>全ての学校に法的な権限と責任を有する「学校運営協議会」を設置することにより市民による学校運営への参画、教育活動への支援等をはじめ、さまざまなコミュニティ・スクールとしての取組みを通して、義務教育9年間の児童・生徒の健やかな成</p>		

長・発達、「人間力」「社会力」の育成をめざし、学校・家庭・地域がそれぞれ当事者意識をもち「ともに」手を携えて教育にあたるシステムを構築している

#### [所感]

「人間力」とは基礎的な素養を身に付け、自立し一人の人間として考え判断し豊かに力強く生きていくための総合的な力、「社会力」とは社会とのかかわりを持ち、社会の一員としての役割を果たしつつ適切な人間関係を結び生きていく力をつけていくことを三鷹市教育ビジョン2022として捉えている。

平成15年4月「三鷹市小・中一貫教育校基本計画検討委員会」設置、検討されたが翌年保護者や地域住民の理解が得られずいったんは白紙になったため、懇談会、講演会、HP周知、基本方針の提示、説明会を経て平成17年12月に実施方策が確定され現在に至っている。いずれにしても「地域と共に」子どもを育てる、質の高い教育をどの学校においても保障する素晴らしいビジョンであると感じた。本市に於いても今後検討に値すると思うが広範囲な本市ではどのように対応するか年月をかけ検討することが必要ではないかと感じた。有意義な視察でありました。

## §2 NO1 川崎市子ども夢パークについて

全国でもめずらしい子どもの居場所「川崎市子ども夢パーク」が当市高津区に有り概ね1万㎡の敷地に不登校と呼ばれる子ども達が集う公営民営のフリースペースと冒険遊び場プレーパークが併設されている「生きているだけで祝福される場を」という大人達の思い入れに守られている施設である。

川崎市で01年に「こどもの権利に関する条例」が施行され、ありのままの自分である権利、自分を守り、守られる権利、自分で決める権利等を明文化その理念を具現化しようと市が打ち出したのが「夢パーク構想」である。

学校や家庭に居場所がない、地域のつながりも薄いそんな時代の中で安心して成長できる場が今求められているのではないかと考えます。

### 1 公設民営「フリースペースえん」管理・運営

日本でも珍しい公設民営のフリースペースである。ここに来たいと思う人は誰でも通える場所である。年齢や国籍、経済的状況、障がいのあるなしに関わらず、さまざまな背景を持つ子ども・若者が集っている

### 2 特徴

「自分で決めるプログラム」その日一日をどのように過ごすかは自分で自由に決

める、誰かが「やってみたい」と思ったことは、みんなが参加するミーティングで提案され「この指とまれ」方式で仲間を集め実現していく、ここにやってくる子ども・若者たちが自由にデザインし創り出す居場所である。

### 3 プレーパーク（ケガと弁当は自分持ち「～禁止」のない遊び場）

「自分の責任で自由に遊ぶ」を合言葉に自分の限界にも挑戦できる、時々ケガもするけれど、だから身につくこともある。たき火や穴掘り、工作やどろ遊び、成功も失敗もすべてがその子自身の宝物である。

4 他 学び・育ちの支援、相談・援助活動・情報提供・啓蒙活動等さまざまな支援を行っている。

#### [所感]

今私たち大人は、子どもに失敗させまいと先回りしてルールを敷き、子どもたちがやってみたいことに挑戦する機会を奪っていると思います。常に他者からの評価にさらされ「～すべき」で固められていて「～したい」がわからなくなってしまった子どもたち。自分の頭で考えて、自分で物事を決定する経験や失敗体験が不足しているのではないかと思います。

そこで「やってみたいことにチャレンジする機会」と「安心して失敗できる環境」づくりが必要であると思います。目先のことにとらわれずに、長いスパンで子どもの成長を考え、寄り添い続けるまなざしが求められていると思います。

有意義であり感動的な視察でありました

## § 2 NO2 かわさき宙と緑の科学館について

今年 50 周年を迎える自然豊かな生田緑地に立地する科学館は、市民との協働、学校教育との連携など市民に開かれた博物館としてこれまでのあゆみを継承して天文（宙）と川崎の自然を題材に、体験と知識の両方を大切にしながら本質を探究する科学的視点に立った事業を展開し科学教育を推進することで科学への関心を高め世界に目を向けられる人材を育むことを理念としている。

基本理念を実現するために 4 つの基本方針を定めているが、体験する博物館の中の「自然体験」「天文体験」「科学体験」について学んだ。

特に天文体験はプラネタリウムの星空と本物の星空を結び投影と天体観測を中心とした天文学習活動を展開することで宇宙と科学に対する興味や理解が深まると感じた

[所感] 年間約 29 万人の来場者があり広大な敷地の中に先程のプラネタリウムやカフェテリア、天体望遠鏡、多摩川の自然等子どもや大人も楽しめる多くの施設があり都会と少し距離を置いた素晴らしい空間（施設）であると感じた。

<p>§ 3 子どもの貧困対策について</p>	
1	足立区の概要 人口 685, 447 人 面積 53. 25 Km <sup>2</sup> 世帯数 340, 838
2	他区からみた足立区のイメージ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スエット、ジャージで出歩いている人が多い</li> <li>・若者がコンビニの前でたむろしている</li> <li>・ニュースで流れる事件発生場所で足立区の名前をよく聞く</li> <li>・自分は他区に住んでいるが足立区は治安が悪いと思う</li> </ul>
3	4つのボルトネック的課題
	治安として刑法犯罪件数が23区ワースト1ということから美しいまちは安全なまちを合言葉にビューティフル・ウインドウズ運動にとりくんでいる
	学力として小・中学校の学力テスト結果 23区で低位であるので基礎が学力の定着を目指した取組み
	健康として区民の健康寿命が都平均より2歳短いことから糖尿病対策に特化
	貧困の連鎖として生活保護・就学援助受給者が多く貧困が子どもたちに連鎖
4	子どもの貧困対策
	子どもの貧困問題が生涯所得に与える影響として高校中退が多い、非正規の割合が高い等の影響が考えられる。(生活保護世帯・児童養護施設・ひとり親世帯 2013時点15歳で18万人) 生涯所得22.6兆円であるが改善シナリオは25.5兆円で経済損失2.9兆円の差が出る(日本財団推計)
	(1) 足立区基本理念
	ア 全ての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく自分の将来に希望を持てる社会の実現
	イ 次代の担い手となる子どもたちが「生き抜く力」をもつことで自分の人生を自ら切り開き、貧困の連鎖に陥らず社会で自立
	ウ 子どもの貧困を経済的な困窮だけと捉えず、社会的孤立や健康上の問題など成育環境全般にわたる複合的な課題と捉え、その解決や予防に取り組む
	(2) 足立区の実践姿勢
	ア 全庁的な取り組み
	イ 「予防、連鎖を断つ」
	ウ 早期のきめ細やかな施策の実施
	エ リスクの高い家庭への支援
	オ NPOとの連携

カ 国、都等への働きかけ

〔所感〕

上記以外でもまだ多くの施策が実施されていますが「治安・学力・健康・貧困の連鎖」を4つのボルトネック的課題と位置づけ取組みを進めている。特に貧困について親・子・孫と世代が変わってもその状態から脱皮することが出来ない「貧困の連鎖」がより根深い問題であると認識し解決に努めてきたようですが、全庁的な取組みには至っていなかったようですが国の「貧困対策の推進に関する法律」を契機に「足立区子どもの貧困対策実施計画」を策定し全庁的に取り組んでいることに共感しました。  
有意義な視察でした。

平成30年8月20日

松本市議会議長 上 條 俊 道 様

教育民生委員会 委 員 村上幸雄